学校法人清教学園
認定こども園　清教学園幼稚園
園長　澤田　麻里

2024（令和 6）年度　清教学園幼稚園　園評価

1　めざす幼稚園像

「一人ひとりの賜物を生かす」愛ある教育
「神なき教育は　知恵ある悪魔をつくり　神ある教育は　愛ある知恵に人を導く」　→　めざす子ども像「神様と人々に愛される子ども」
イエスさまの愛の教えに基づき、神様に愛されている子どもたち一人ひとりを大切に育んでいくことを教育の基本とします。
・楽しい表現活動や英語活動を通して、創造力と国際感覚を豊かに育てます。
・栽培活動や徒歩通園を通して、自然とのかかわり、交通安全、たくましい心と身体を育てます。

2　中期的目標：教育計画における重点項目

保育・教育の質向上

◆清教型プロジェクト保育（設定されたテーマに沿って、園児が主体的に学ぶことを重視した教育保育手法）を実践し、下記の成長目標を目指す。
・自分が愛されていることを知り、周りの人たちも思いやれる子ども
・自分の思いや考えを豊かに表現できる子ども
・たくましい心と体を持ち、色々な事にチャレンジすることができる子ども

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析

○各部門に関するアンケート結果（対象者：保護者、前年度〈68,9%〉回答率 65,2%）

＊表中の評価（満足度）は下記計算式から算出されたもの。
満足度＝１×A 回答数＋（２／３）×B 回答数＋（１／３）×C 回答数＋０×D 回答数
＊評価 A,B,C,D は右記により算出（100%満点　90%以上 S 評価　80%以上 A 評価
60%以上 B 評価　40%以上 C 評価　40%以下 D 評価）

	項目	A（%）	B（%）	C（%）	D（%）	満足度	評価
運営	保護者対応	73.8%	23.6%	2.1%	0.5%	93　%	S
	安心感	80.6%	18.9%	0.5%	0.0%	95　%	S
	保護者の要望	60.9%	33.7%	4.3%	1.1%	89　%	A
	情報共有	69.0%	25.9%	4.1%	1.0%	91　%	S
	ケガの対応	69.7%	26.3%	4.0%	0.0%	91　%	S
	相談対応	61.2%	35.2%	3.1%	0.5%	89　%	A
	重要事項の説明	60.5%	34.9%	3.6%	1.0%	89　%	A
環境	園内美化	75.4%	21.5%	2.6%	0.5%	93　%	S
	設備の充実	68.2%	28.2%	3.1%	0.5%	91　%	S
	安全環境の維持	72.8%	26.2%	1.0%	0.0%	93　%	S
子育て支援等	個人情報の取扱い	75.8%	22.5%	1.6%	0.0%	94　%	S
	広報（HP）	83.8%	15.7%	0.5%	0.0%	96　%	S
	子育て支援	77.0%	20.3%	0.0%	2.7%	93　%	S
	入園への推奨	73.6%	23.8%	1.6%	1.0%	92　%	S

＜分析＞

○運　営：幼保連携型認定こども園としての運営は、総合的な満足度は高く、子どもを安心して預けることができると評価されている。今後、社会福祉法人となるが、さらなる保育の充実と安定した事業運営を行っていく。

○環　境：全体的に高評価をいただいている。保育・教育環境は少しずつではあるが更新が進んでおり、評価を得ている。

○子育て支援等：子育て支援にご参加いただいている方々からは高評価を得ている。親同士のコミュニティーも兼ねて参加しやすい運営を今後も目指していく。

○教育・保育：次項「３．本年度の取組内容及び自己評価」を参照

学校評価委員会からの意見

学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒園生、および学園教職員の 3 つの枠を設けた上で行われている。

2024（令和 6）年度については、2025（令和 7）年 3 月 29 日に学校関係者評価委員会を開催。

＜意見＞

●保護者の評価が非常に高いことは誠に喜ばしく、教職員の地道な努力の結果である。ただ、それが働く方々の過度な負担増にならないように目標設定にもあるように働きやすさと働きがいの両立についても十分にご配慮いただければと思います。

●総じて高得点であり、幼稚園の取り組みが大変評価されていると感じた。一方で少し気になるのが回答率が 65%と低い事で、回答していただいているグループにバイアスがかかっている可能性が否定できないため、今後回答率を上げることが望まれる。また、極めて低率だが D 評価の意見に関してももし取り上げるものがあるのであれば取り上げて欲しい。

●全ての項目で高い満足度が得られており、保護者からの信頼感がうかがえる。特に「園に安心して子どもを預けることができる」といった総合評価にあたる項目の評価が極めて高いことから、園における各種活動に細やかな心配りがなされていることが推察できる。

・「園はキリスト教主義に基づく教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている」との項目に対する評価が前年より上がっている。園の存立基盤ともいえるキリスト教に対する園内での意識が高まったことは喜ばしい。

・「子どもに関する相談が気軽にできる」という項目への評価が下がっており、満足度は決して低くはないがアンケート全体でみれば相対的には評価が低くなっていることには留意が必要だろう。園内が多忙で、保護者も職員も話しかけにくい雰囲気が漂っていないか、確認も必要ではないか。

・近年はアンケート回答率が下がってきており、園に対する関心が薄れていることの表れではないかとの懸念もある。園が保護者に依頼する事柄の一部が分かりにくいとの指摘もあるようなので、園への興味関心を改めて喚起する方策を検討いただきたい。

●急激に進む少子化の中、ここ 10 年来の在園児数が維持または増加しているという事実が、園に対する最も具体的な評価であると受け止めることができると思います。目の前の課題に真摯に、前向きに取り組む教職員の方々の姿が目に浮かびます。そんな中で数少ない D 評価の判断をされた方々のご意見が気に掛かります。園に対する要望、情報共有、子育て支援活動、これらの項目に関連することに改善の必要なことが隠れていないか、現在の段階で突き止めておきたいです。

●いずれの項目においても高い評価が得られているので、今後もこれまでの取組みを維持、発展させていただきたい。トラブルの防止のためにも、より良い保育のためにも、園児や保護者とのコミュニケーションは大切であるので、分かりやすい言葉あるいは文章で伝える努力を続けていただきたい。

3　本年度の取組内容及び自己評価

<table>
<tr><th>中期的目標</th><th>今年度の重点目標</th><th>具体的な取組計画・内容</th><th>自己評価</th><th>評価指標</th></tr>
<tr><td rowspan="4">保育・教育の質的向上</td><td>◆子どもの発達段階や年齢に応じた課題を踏まえた教育・保育内容の確立</td><td>《0～５歳児の保育内容の確立》
・アフターコロナにおける通常運営の在り方の確立

・0 歳児保育実施

・聖愛保育園との合同研修の実施</td><td>・アフターコロナの通常運営も徐々に開始していき、増えた行事の継続と減った行事の復活のバランスを今後の運営を加味しながら、実施できた。

・0 歳児から預かることで保育と教育の時間のバランス調整が必要に感じた。1 年間通して、運営方法を確立しながら次年度へ活かすことができるよう情報共有も実施できた。

・次年度社会福祉法人となることで、同じ法人下となる聖愛保育園とは、情報共有や意見交換に関しては、園長を中心として実施できた。今後、合同で研修を実施する場合は、両園の状況を配慮しつつ実施していきたい。</td><td rowspan="4">●半数以上の回答率でこの評価はとても素晴らしい思います。
保護者もとても満足しておられるのだろうと感じます。

●全体的に A,S 評価が多く、深刻な改善点はなかったように思えます。回答していない保護者の意見は、ある意味満足している（特段不満はない）と読み取れるとも思えます。回答率をさらに上昇させるための方策としては項目を減らす、保護者会等集まった時に全員一斉に回答を求める、などがあるかと思います。

●アンケート結果では、S および A 評価のみとなっており、多くの方から高い評価を得ていることが分かりました。特に、キリスト教保育についてもご理解をいただいているご家庭が多く、保護者の皆様に受け入れられている点が素晴らしいと感じました。

●全体として良い評価であることはわかりましたが、保護者への情報共有、英語教育に課題があると感じました。
・園側は保護者の利便性があがることを期待しての工夫かと思いますが、受け手である保護者は、情報が散らばっていると感じていて、見落としなどが起こり、(アプリは見ていたけれど、貼りだしは気づかなかったなど。)不便を感じることがあると思います。
・一定数、アプリで困っている人がいることを園側は理解し、個人面談のときなど、アプリで困っているか、など、ヒアリングをすることで、保護者も言いやすいかもしれません。
・保護者の期待値が高すぎると思います。(現状を知らない保護者の認識のずれ）保護者にわかってもらう工夫、努力が必要と感じた。求めている英語環境はどんなものか、ヒアリングしたり、保護者自体が家庭においてできることの情報提供の機会を作ってみたり、外部から人を呼んでセミナーなどを開くなどして、家庭内でできることを考える機会を設けてみてはどうでしょうか。

＊表中の評価（満足度）は下記計算式から算出されたもの。
満足度＝１×A 回答数＋（２／３）×B 回答数＋（１／３）×C 回答数＋０×D 回答数
＊評価 A,B,C,D は右記により算出（100%満点　90%以上 S 評価　80%以上 A 評価　60%以上 B 評価　40%以上 C 評価　40%以下 D 評価）

<table><tr><th>項目</th><th>A（%）</th><th>B（%）</th><th>C（%）</th><th>D（%）</th><th>満足度</th><th>評価</th></tr><tr><td>通園欲求</td><td>56.9%</td><td>40.1%</td><td>3.0%</td><td>0.0%</td><td>88　%</td><td>A</td></tr><tr><td>こども同士の人間関係</td><td>53.6%</td><td>43.8%</td><td>2.1%</td><td>0.5%</td><td>88　%</td><td>A</td></tr><tr><td>給食の質</td><td>68.4%</td><td>28.6%</td><td>3.1%</td><td>0.0%</td><td>91　%</td><td>S</td></tr><tr><td>キリスト教保育</td><td>63.2%</td><td>35.3%</td><td>1.6%</td><td>0.0%</td><td>90　%</td><td>S</td></tr><tr><td>教育目標</td><td>68.6%</td><td>30.3%</td><td>0.5%</td><td>0.5%</td><td>92　%</td><td>S</td></tr><tr><td>美術教育</td><td>70.2%</td><td>28.3%</td><td>1.6%</td><td>0.0%</td><td>92　%</td><td>S</td></tr><tr><td>英語教育</td><td>60.3%</td><td>34.4%</td><td>4.8%</td><td>0.5%</td><td>89　%</td><td>A</td></tr><tr><td>安全教育</td><td>72.8%</td><td>26.2%</td><td>1.0%</td><td>0.0%</td><td>93　%</td><td>S</td></tr><tr><td>信頼関係</td><td>78.1%</td><td>21.4%</td><td>0.0%</td><td>0.5%</td><td>94　%</td><td>S</td></tr><tr><td>公平性</td><td>69.7%</td><td>29.8%</td><td>0.0%</td><td>0.5%</td><td>92　%</td><td>S</td></tr><tr><td>個人の理解</td><td>70.8%</td><td>27.6%</td><td>1.0%</td><td>0.5%</td><td>92　%</td><td>S</td></tr></table>＜凡例＞
前段【自己評価アンケートの結果と分析】と同じ。

【総合評価】
各課題があるものの、総合的に高評価をいただけた。
いただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の教育保育活動に活かしていきたいと考えます。

【今後に向けて】
次年度は、社会福祉法人初年度となりますが、これからも神様と地域の皆様に愛される園を目指して、日々の保育教育活動により一層力を入れていきたいと考えます。</td></tr>
<tr><td>◆働きやすさと働きがいを両立するキャリアパスの確立</td><td>《教職員の契約形態の見直しと適正化》
・2024 年度運用開始予定の給与改定による新たな仕組みの確立

・残業減への取り組み
*人件費の支出バランスに注視し、教職員モチベーションにつながるような評価のしくみ導入を目指す

・目標設定による自己評価を実施
→個別面談の実施</td><td>・新給与制度の完成、2025 年度開始に向けて準備を整えることができた。最低賃金上昇、物価高騰の動きがある中、これによってよりよい働きに繋がるよう今後の動きに注視していきたい。

・教職員の負担軽減も含め、残業申請の際は業務内容とスケジュールを確認し声掛けを実施してきた。教職員のモチベーション強化に関しては、今後調査しつつ検討を重ねていきたい。

・各目標や自己評価など、個人別で作成いただいており、それを含めて次年度への面談などを実施できた。</td></tr>
<tr><td>◆幼児から児童までの子育ちをサポートする園運営と既存施設設備の有効活用</td><td>《児童の学習サポートの確立》
・清教キャンパスとＳＴＥＰ，学習塾との連携等の検討

《園児の支援体制の確立》
・専門教員から担任の先生へ保育中の関わり方やアドバイス等
実情に沿った保育内容の研修や指導を実施する。</td><td>・STEP として今までと同じような放課後児童へのお迎えや授業後の預かり等実施できているものの、課題としてあげていた学習塾との連携等の動きはなかった。

・今年度はクラス運営もしつつ、支援の専門としても現場と情報共有しつつ、外部専門の先生との中継などを中心に進めてきた。次年度は、外部からの専門職員を配置し、支援に特化した分野を展開できる環境を整えていく考えである。</td></tr>
<tr><td>◆収支バランスの改善と新たな収支構造の確立</td><td>《園児数の目標数確保及び一時預かり事業一般型の開始による収入の安定化》
・一時預かり保育事業一般型を開始する。</td><td>・預かり保育一般型が開始され、保護者の方にも高評価をいただいている。兄弟姉妹がいることや通い慣れた環境による安心感もあり、そのまま進級していただけている。このような状況も評価をいただき、弟妹が後続して入園する体制が整いつつある。</td></tr>
</table>